

研究者4人に1750万円寄付

肥後銀、ビジネス創出支援

肥後銀行は、県内の大学などで研究開発中の技術やノウハウの事業化を支援しようと、

研究者4人に計1750万円を寄付した。4月に新設した寄付制度「肥銀ギャップ資金」による寄付の第一弾。

県内の大学や高専などの研究者が対象で、1件500万円が上限。今回は応募のあった12人から、事業化の可能性や新規性などを評価して4人を選んだ。

同制度の設置は3年

間。年1回のペースで寄付先を募集することにしており、同行は「採択者の中には近く法人化する動きもある。熊本発の新ビジネス創出を支援したい」としている。（中原功一朗）

採択者と研究内容は次の通り。

池永和敏・崇城大教授

マイクロ波技術を活用した災害廃棄物リ

サイクル▽谷時雄・熊本

本大大学院教授 世界

初の分裂酵母を用いた

米焼酎の製造▽中島雄

太・熊本本大大学院准教

授 手軽に受信可能ながん診断機器の開発▽米田哲也・熊本本大大学院教授 早期の認知症発症診断技術の開発